

謹賀新年



『美ら海の防人』

海上自衛隊 第5航空群



発行：沖 縄 二 火 会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新 栄 印 刷



新年のご挨拶

第5航空群司令 高田 哲哉

沖縄二火会の皆様、第5航空群の隊員及びご家族の皆様、そして「でいご」をご覧の皆様、明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中、皆様におかれましては、我々の任務はもとより各種活動や行事等に対しましても、格別なるご支援とご協力を賜り、第5航空群を代表して厚く御礼申し上げます。

昨年、インド太平洋地域の最前線たる第5航空群では、平素からの常続的な警戒監視・情報収集といった任務に加え、通算20回目となる海賊対処行動への派遣を行い、無事にこれらの任務を完遂することができました。また、新型コロナウイルス感染症による影響が少なくなったこともあり、第5航空群創立51周年記念行事や、宮古島・石垣島・与那国島を含む沖縄県の小中

学生等への雪のプレゼント・南極の氷のプレゼントといった各種行事を活性化することで、地域の皆様との交流を深めることができ、卯年において大きな飛躍を遂げることができました。

これら各種行事の実施にあたり、沖縄二火会をはじめとする関係各位から多大なるご支援・ご協力をいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

さて、東シナ海、南シナ海における力による一方的な現状変更や、ロシアのウクライナ侵略、刻一刻と緊張度の高まるイスラエル・パレスチナ情勢などに代表されるように、我が国を取巻く安全保障環境は、戦後最大の試練の時を迎えています。このような情勢を踏まえれば、今年も今年ということもあり、正に第5航空群にとっての登竜門の

年といえるかもしれません。これからも第5航空群が沖縄県の皆様から信頼され、安心・安全がお届けできるよう、一意専心、任務にまい進する所存です。

しかしながら、安全保障上の課題や不安定要因は、多様かつ広範であり、一国のみでは対応が困難であるように、第5航空群が責務を完遂していくためには、第5航空群の隊員のみでの努力では困難です。

沖縄県民の皆様をはじめとする国民の皆様のご理解とご協力が必要不可欠であり、本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。





年頭のご挨拶

沖繩二火会 会長 佐久本武

海上自衛隊第5航空群の隊員及び自衛隊各部隊の皆様並びに本紙「でいご」愛読者の皆様、明けましておめでとうございます。長く続いた新型コロナウイルスも第5類に分類され、共に新春を明るく祝える令和六年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年は、県内の陸・海・空自衛隊の創立記念式典等、各種行事が開催され、新成人・新隊員をはじめ、活気を取り戻した各隊員の皆様の凛々しい姿を見て、その力強さをあらためて知ることが出来ました。

世界に目をやれば、終結の見えないロシアのウクライナ侵略、数多くの民間人犠牲者を出し続けるイスラエルのガザ地区攻撃等、戦争の悲惨さを感じざるを得ません。我が国においても周辺国からの脅威は顕在化しており、特に我が沖繩県では、台湾から尖閣諸島周辺までを自国領土として接続水域から領海まで艦船を送り続ける中国、ロシアへの武器輸出入など協力関係を結ぼうとする北朝鮮に囲まれており、力による現状変更を望む国から領土を守り、島嶼県である沖繩の県民を保護あるいは避難させるためには、離島への部隊配備等更なる自衛隊の増強とともに、在日米軍との連携強化が重要であると認識しています。

我々沖繩二火会が支援する第5航空群においては高田群司令指揮の下、尖閣諸島をはじめとする東シナ海の哨戒任務に加え、遠くソマリア沖の海賊対処行動等を目的とした海外派遣を継続する等、防衛最前線で任務に邁進されています。また、激務の傍らで摩文仁の丘における清掃などのボランティア活動を通して地域貢献活動を継続しており、あらためて第5航空群の各級指揮官及び隊員の皆様に対し心より敬意を表します。

私も沖繩二火会会員は、日々厳しい任務を遂行している第5航空群の隊員の皆様が、今後とも高田群司令を中心として任務に邁進されましよう心よりお祈り申し上げますとともに、ご家族の皆様が心穏やかな生活が出来ますようご祈念申し上げます。また、引き続き沖繩県防衛協会をはじめとする県内自衛隊協力団体と連携して第5航空群の支援活動を継続し、県民との懸け橋として防衛思想の普及・啓蒙に努める事をお誓い申し上げます。

どうぞ、第5航空群の隊員及びご家族の皆様、並びに沖繩二火会会員、さらに防衛関係各団体の会員及びご協力を戴いている個人の皆様方が、健やかで幸多き一年を迎えられますよう祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶

沖縄県防衛協会 会長 國場 幸一

新年明けましておめでとうござ
います。

海上自衛隊第5航空群の皆様には、ご家族共々希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエル・パレスティナ紛争等の国際的な戦乱のうねりが続く中、わが国を取り巻く安全保障環境もまた厳しさを増してきております。中台情勢の緊迫化、尖閣諸島等への中国の不法行動、北朝鮮の弾道ミサイルの発射等に對して、第5航空群の皆様の極めて、高い使命感と強い責任感をもつての毅然とした警戒・監視、情報収集活動のみならず、沖縄県民にとり必要不可欠な災害派遣及び救難活動など崇高な任務遂行のために日夜身命を賭してご尽力頂いていることに心より敬意を表します。

またわが国は、エネルギー資源を含む様々な原材料等の多くを海外に依存しており、国際社会の平和と安定の維持が我々の生活と安全に直接結びついています。このような情勢下、第5航空群の皆様が昨年もアフリカのソマリア沖・

アデン湾へ「第52次海賊対処行動航空隊」要員として派遣され、国際社会の平和維持の重任を見事に達成されました。大変ご苦勞様でした。

このような防衛活動に加え、平素より海上自衛隊艦艇の一般公開・哨戒機の体験搭乗、首里城祭・雪のプレゼント等の地域交流行事への参加、戦没者慰霊祭の支援等数々の行事を通じ、海上自衛隊の活動に對する県民の皆様の理解の輪が広がってきていることを実感しております。

どうか新しい年におきましても、第5航空群が海将補高田哲哉群司令を核心に国土防衛の任務のみならず世界平和のために大きく貢献されますことを祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。





新年のご挨拶

一般社団法人
沖縄海友会 会長 門馬 規雄

海上自衛隊第5航空群の隊員諸官及びご家族の皆様並びに本誌「でいご」愛読者の皆様、明けましておめでとうございます。

令和6年の輝かしい新年にあたり、皆様にはご家族共々希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

海上自衛隊第5航空群隊員の皆様には、年末年始も洛々と継続して任務を遂行しておられ、また創設以来航空無事故を継続しておられることは高い意識と技能の証であり、改めて敬意を表します。

国際情勢は欧州、中東をはじめ各所に不安定な状況が生起するなか、我が国近傍においても力による一方的な現状変更の目論見が見られ、これらに対し関係諸国と連携し法の支配に基づく国際社会を推進すべく、重要性を増している尖閣諸島を含む南西諸島周辺海域の警戒監視任務は勿論、災害派遣、民生協力などの国民の生命、財産を守る重要な任務に加え、平成21年に開始されたソマリア沖アデン湾派遣海賊対処行動航空隊は、昨年第50次隊に続き第5航空群から20回目となる第52次隊を派遣するなど、国際社会の平和と安全の確保に継続して貢献しておられます。

昨年は第5航空群創立51年記念行事を隊員の皆様や支援団体の皆様と共に祝いでき誠に嬉しい限りです。

地域との交流でも音楽の夕べ、雪及び南極の氷プレゼントから戦没者献花などに加え、各種ボランティア活動にも積極的に参加されるなど、隊員の皆様の意気込みは頼もしい限りです。

我々沖縄海友会は、沖縄の海軍出身者によって設立された、先の大戦で祖国防衛のために国に殉じられた海軍出身者の慰霊を目的とする法人団体ですが、設立時の会員は高齢となり現在は海上自衛隊のOB、OGが中心です。

毎年5月27日には、海軍戦没者慰霊之塔での慰霊祭を、第5航空群の皆様のご支援をいただいで海軍礼式に則つて厳粛に催行できておりますこと、改めて深く感謝いたします。

また海軍壕の清掃参加なども含めて第5航空群の皆様には、これまでのご支援、ご協力を深くお礼申し上げますとともに、これからも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

我々沖縄海友会は、今後とも沖縄県防衛協会、沖縄二火会、沖縄四樹の会等他の協力団体と連携し、自衛隊に対する県民の理解を深めると共に防衛思想の普及啓発に努め、第5航空群をご支援して参る所存です。

結びに、第5航空群隊員とご家族の皆様、防衛関係団体各位の皆様のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



海上自衛隊 第5航空群 公式 SNS・広報ラジオ「美ら海の防人」



第5航空群公式
ホームページ

海上自衛隊第5航空群では、SNSを活用した情報発信を行っています。
隊員のオフショットや「海自あるある」など紹介していきます！
X(旧Twitter)やInstagramで「jmsdf_5aw」で検索！たくさんのフォローお待ちしております！

また、沖縄県に在籍する陸・海・空自衛隊及び沖縄地本が週替わりで自衛隊について放送する広報ラジオ「SDF アワー」にて第5航空群では「美ら海の防人」という番組を担当し皆様にお送りしています。
番組に関するお便り、ご質問事項及び年間放送スケジュールは、第5航空群ホームページにて確認できます。
番組で紹介させていただいた方には、もちろん海上自衛隊(第5航空群)オリジナルグッズをプレゼント！
下記のQRコードよりアプリをダウンロードすれば全国どこでもお聴きいただけますので是非お聴きください。
お便りもお待ちしております！

X @jmsdf_5aw



Instagram
jmsdf_5aw



放送局(周波数)
FMレキオ(80.6MHz) / FM21(76.8MHz)
FMもとぶ(78.2MHz)
毎週金曜日 20:00~21:00
※再放送日(FMレキオのみ) 日曜日 21:00~22:00





年頭の挨拶

沖縄県知事 玉城 徳一

はいさい、ぐすーよー、いそーぐわちでーびる
新年、あけましておめでとうございます。

海上自衛隊第5航空群所属の隊員及び御家族の皆様におかれましては、輝かしい新春を御壮健にてお迎えのことと御慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、南北約400キロメートル、東西約1,000キロメートルにわたる広大な海域を有する島しょ県である本県において、365日休むことなく警戒・監視任務に従事いただいております。加えて、災害派遣、船舶や航空機の救難など県民生活の安全と安心の向上にも多大な貢献をされており、県民を代表して心より感謝申し上げます。

災害派遣では、令和4年6月には、航行不能になったヨット乗船者を全員無事に救助したほか、あらゆる事態に対応できるよう常時24時間態勢で災害等の発生に備えている隊員の皆様の崇高な使命感に基づいた御活躍に対し、心から敬意を表します。
また、ソマリア沖・アデン



年頭の挨拶

那覇市長 知念 覚

はいさい、ぐすーよー、いそーぐわちでーびる。

海上自衛隊第5航空群の隊員並びにご家族の皆様におかれましては、令和6年の新春を晴れやかな気持ちで迎えられることと心からお慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、国際情勢の急激な変化に伴い、わが国を取り巻く安全保障環境も年々厳しさを増す中、南西諸島近海の海域の警戒・監視、船舶の捜索救難活動や災害派遣などに、日々取り組まれていることと存じます。

また、ソマリア沖・アデン湾における海賊行為に対処するため毎年隊員を派遣されるなど、国際社会の平和秩序の確保に貢献し続けていることへ敬意を表するとともに、広大な海域を有する沖縄県及び我が国において、海の安全及び国民の生命・財産を守るといふ重要な任務を担っていただいていることに対して、心より感謝の念を表します。

さて、本市においては昨年、首里城復興祭・琉球王朝絵巻行列に隊員約80名が参加され

たと伺っており、市民・県民との繋がりがより一層強まっていることを感じております。

また、力強い演奏で観客を魅了する「音楽の夕べ」や雪の降らない本県の子供たちが雪を体験できる「雪のプレゼント」が、今年も実施される予定と聞き及んでおり、心躍るイベントを通じた地域交流を市民・県民も楽しみにしていることと思います。

「美ら海の防人」として地域の安全と平和のため尽力されている皆様の活動は、本市が推進している、平和への想いを発信し、平和の尊さを次世代に受け継いでいくまちづくりに大きくご貢献いただいております。今後とも、本市の市政運営についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年も我が国のみならず、世界の国々が共に恒久平和への道に向かうことを願うとともに、海上自衛隊第5航空群隊員並びにご家族の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。
いつペーにふえーでーびる。



第5航空群創立51周年記念式典・記念行事



国旗・自衛艦旗に対しての敬礼

令和5年10月28日(土)「第5航空群創立51周年記念式典・記念行事」が行われました。

記念式典は、国旗・自衛艦旗に対しての敬礼で開始されました。

第5航空群司令(高田海将補)は式辞で、来賓はじめ来場の皆様へ日頃の海上自衛隊の活動への理解と支援に対するお礼を述べられました。隊員に対しては、「我が国を取巻く安全保障環境は、戦後最大の試練の時を迎えている。正に自衛隊の真価が問われるときであり、常に精強であり、全ての事態に即応するためには、無駄なことに労力をかける暇はなく、真に必要なことのみを力に傾注し、万事、「適当」に対処する必要がある。我々には結果責任が求められており「頑張りました。でも、負けました。」では国民の負託にこたえられないことを今一度、肝に銘じてもらいたい。また、第5航空群が引き続

き国民からの信任を得られるよう、粉骨砕身して職務の完遂に努めよう。守るべき人は、今、諸官の目の前にいます。」と訓示しました。

その後、今年度4月に入隊した那覇航空基地において実習中(今後、那覇航空基地での勤務が予定されている。)の新入隊員の紹介と「サービスの宣誓」が行われ、海上自衛隊の将来を担う、若き隊員の姿に感銘を受けました。

記念行事では、はぐくみ児童クラブによる三線、太鼓演奏を皮切りに、第5航空群軽音楽部隊員による演奏、興南(高校・中学)ダンス部によるダンス、陸上自衛隊第15音楽隊による記念演奏及び第5航空群隊員によるエイサーが披露されました。エイサーでは、新入隊員が迷彩服で第5航空群司令が制服姿で演舞をしている姿を観て、第5航空群の団結力及び士気の高さを垣間観ることができました。



高田群司令式辞



新入隊員によるサービスの宣誓



はぐくみ児童クラブ演奏



軽音楽部演奏



興南高校、中学ダンス部



隊員によるエイサー演舞



15音楽隊記念演奏



派遣海賊対処行動航空隊(第52次隊要員)帰国行事



令和5年10月16日(月)、派遣海賊対処行動航空隊の52次要員(指揮官 出口2佐、以下約60名)の帰国行事が行われました。

52次要員は、4月下旬からアフリカのジブチ共和国に派遣され、5か月の任務を終え、帰国しました。

派遣期間中のジブチ共和国は、真夏で気温が50度を超えることもあり、勤務地周辺には日本では想像のつかない広大な砂漠が広がっています。

そのような過酷な環境の中、派遣隊員は、無事に任務を完了しました。

帰国行事では、5空群の隊員や、隊員家族並びに協力会会員による出迎えのあと、自衛艦隊司令官(海将齋藤聡)からの訓示が行われました。

訓示では、「任務を完了し帰国した第52次派遣海賊対処行動航空隊司令をはじめとする諸官を指揮官として出迎えることができ、とても嬉しく思う。」との任務完了への労いのほかに、「エイサーをはじめとする日本文化の粋を披露し、他国軍との相互理解の促進と連携の強化に尽力した。その献身的な取り組みに心から感謝する。」と述べられました。また、隊員家族及び友人による支援と理解に感謝の意を述べられました。



帰国行事終了後、派遣隊員は、約5か月ぶりに家族との再会を果たし、無事日本に帰ってきたという安心の表情を見せるとともに、長期間の任務をやり遂げたという達成感などが見てとれました。

派遣海賊対処行動航空隊(第52次要員) 司令コメント

令和5年10月15日夕刻、派遣海賊対処行動航空隊第52次要員は、ソマリア沖・アデン湾における任務を完了し、那覇航空基地に到着しました。第52次要員は、4月25日に日本を出国し、約5か月の任務を実施した後、10月12日に第53次要員に任務を引き継ぎ、帰国の途に就きました。

先ずは、総員無事に帰国することができ安堵しております。

現地では、隊員一人一人が日本国自衛隊員としての使命を自覚し、日本の代表であるという気概を持って責務を果たした結果、我が国及び世界各国にとって重要な地域である、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処任務及び情報収集任務を完了することができ、日本の国益に寄与することができたものと考えます。

本派遣期間中、温度計では53度を記録するという夏季のジブチの厳しい環境での勤務となりましたが、第52次要員が無事任務を完了することができましたことは、国民の皆様のご理解と、隊員を支えて頂きましたご家族の皆様のおかげであり、隊員を代表して心から御礼を申し上げます。

第52次派遣海賊対処行動航空隊司令
2等海佐 出口 晶一

南極の氷のプレゼント

令和5年9月12日(火)・13日(水)石垣島と与那国島において南極の氷の特別授業が行われました。

南極の氷は、砕氷艦「しらせ」が南極へ物資を運んだあと、軽くなつた船体を重くし、海面の氷を砕いて帰るために艦内に搭載して持ち帰っているものです。

9月12日(火)に、石垣島の大浜中学校に出向き、生徒35名に対して「南極の氷」の特別授業を行い、翌13日(水)には与那国島へ移動して与那国中学校生徒35名及び久部良中学校19名に対して行いました。

各中学校の生徒達は、初めて手にする南極の氷に興味深々。

氷をコップへ入れて、氷の中に閉じ込められた小さな気泡が「ぶちぶち」と氷が溶けるにもなつて音が鳴ることを確認し、約2万年前の氷の感触を五感で体験していました。

各中学校からは、南極の氷の特別授業と氷の寄贈に対して、感謝の意が表されました。



沖縄調理師専門学校校外実習支援

那覇航空基地隊厚生隊給養班長 3等海尉 高田 誠

令和5年9月6日(火)から10月6日(金)まで、沖縄地方協力本部からの依頼を受け、沖縄調理師専門学校2年生2名の集団給食施設校外実習を支援しました。

沖縄調理師専門学校では、2年生課程の学生を対象に、「キャリア」、「教養教育」、「専門教育」の3点を目的に、校外実習を行っているそうです。今回の支援では、学校側の目的を踏まえた上で、自衛隊での調理作業を実際に体験してもらい、調理従事者としての技能向上を図ってもらいました。また、海上自衛隊給食業務の組織編成や海上自衛隊給養員の魅力(陸上・艦艇部隊)などについても学んでもらうことができました。



当初、実習生2名は、それぞれ期待と不安が、入り混じるようでも、やや緊張しているようでしたが、時間が経過するにつれ、伸び伸びと実習に取り組み、組んでいる様子が見え、指導する我々も元気をもらいました。

最終日には、第5航空群伝統のカレーレシピを基に、カレールーから練り上げた海自カレーを2人で調理し、隊員に食べてもらいました。隊員からの評判も上々でした。事故なく無事に実習を終了することができたことは、実習生にとって、充実した時間となり、支援する側としても良い経験となりました。今後も海上自衛隊に対する理解と協力を得るためにも可能な限り学生等の校外実習を受け入れていきたいと思えます。



に寄港した際に実施した艦上レセプションや昼食会の様子や、外出の時間を見聞を広めたこと等の話をする時間を設け、実習生から「艦艇勤務で海外や多くの寄港地に行くのも楽しそう。」「校外実習が終わることが寂しい。」などの声を聴くことができました。

自衛隊協力者への感謝状贈呈式

「統合幕僚長からの感謝状贈呈」

令和5年11月18日(土)、沖縄二火会会長佐久本武氏の「統合運用に係る防衛基盤の育成」の功績に対して、統合幕僚長(陸将吉田吉秀)から感謝状が贈呈されました。



沖縄二火会会長 佐久本 武氏



「海上幕僚長からの感謝状贈呈」

令和5年11月17日(金)、沖縄県防衛協会会長国場幸一氏及び沖縄二火会顧問瀧辺美紀氏の「沖縄県における防衛基盤の育成」の功績に対して、海上幕僚長(海将 酒井良)から感謝状が贈呈されました。



沖縄防衛協会会長 国場 幸一氏



沖縄二火会顧問 瀧辺 美紀氏

普天間フライトラインフェアでの広報活動



令和5年9月30日(土)・10月1日(日)米海兵隊「普天間航空基地」において、米海兵隊の行事普天間フライトラインフェアが行われました。

第5航空群もこれに参加しており、自衛隊ブースでの広報活動、P-3C哨戒機の地上展示とともに、任務・部隊の説明が行われていました。会場では、グラミー賞受賞アーティストによるライブなども行われるとともに、航空機エリアでは普段見られない米軍機、陸・空自衛隊の航空機も展示され、来場者は、思い思いに写真を撮っていました。

祭りの最後には花火も打ち上げられ、楽しいイベントを体験できました。



「首里城復興祭・琉球王朝絵巻行列」への参加

第5航空群司令部広報室 今村曹長

「琉球王朝絵巻行列」とは、首里城を中心に行われる「首里城祭」の中の行事の一つであり、琉球王国時代、中国皇帝の使者として訪れる「冊封使」を迎える儀式を再現した沖縄の伝統行事です。

第5航空群では、平成15年に32名の隊員有志が「沖縄勤務の思い出に」とボランティアで参加したことから始まり、令和元年まで毎年参加していました。

令和元年に生じた首里城の火災と、コロナ禍の影響も重なり中断されていた「琉球王朝絵巻行列」ですが、今年は、4年ぶりに復活し「首里城復興祭・琉球王朝絵巻行列」と銘打って令和5年11月5日(日)に実施されました。

今回は、行事の規模が縮小されたにもかかわらず、初任海士(新入隊員)を中心に約80名の参加希望者が集まり参加しました。琉球王国時代の衣装を身にまとった参加者は、国際通りに集まった観客の前を粛々と練り歩きました。

参加した隊員からは、「沖縄の文化に触れられ良い経験となりました。」「このような盛大な行事に参加でき、その一端を担えたことを光栄に思う。」との声も聞かれました。

今後、地域交流のイベント等に積極的に参加し、海上自衛隊のPRも含め、地元との交流を深めていきたいと思えます。



国王・王妃の神輿担ぎは、すべて海上自衛官が担当しました。



三司官(首里王府の行政の実務最高責任者)役の第5航空隊司令



海上自衛隊 職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

今回紹介する他にも、航空管制員や調理員、電子整備員など、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。

その中から今回は、第5航空群司令部指揮通信班で通信員として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

- 1 仕事内容
- 2 将来の目標
- 3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ



無線通信交話訓練

通信員・第5航空群司令部 指揮通信班

田口3曹

1 『無線送受信機や衛星通信機材を使い、那覇航空基地内にある司令部と、飛行中のP-3C哨戒機との通信が主な仕事ですが、部隊等の使用するパソコン機材等のトラブル対処等も行っています。』

2 『通信の分野は日進月歩で技術が発達していて、自衛隊の通信にも最新技術が次々に適用されています。通信は水や空気と同じように「あって当たり前」繋がって普通」なので、常に知識をアップデートして快適な通信環境を作れる通信員を目指します。』

3 『仕事はこれからの人生の大半の時間を占めます。人生を豊かにし幸福度を高めるために仕事選びは重要になってきます。自分自身の理想を掲げ、後悔のないように選択してください。海上自衛隊には様々な職種があるので、まだ曖昧な将来像しか描けていない方は入隊してやりがいのある自分に合った職種を探してみてもいいかですか。』



衛星通信



第5整備補給隊 伊波3曹

防衛省・自衛隊では、国産水産物の消費の拡大を図る取り組みを実施しています。

この取り組みに海上自衛隊では「艦めしーふーど」の名称で国産水産物を使用した料理を積極的に取り入れています。

第5航空群では、令和5年10月には、北海道産のぶりの塩焼きが提供されました。

ぶり本来のうまみをシンプルな塩味で整えているので、素材の味を満喫することができます。



11月には、ポテトの衣をつけた、北海道産の帆立のフライが提供されました。ほんのりとカレー味を付け、帆立のジューシーさとポテトフライのサクサクした食感のアクセントが絶妙でした。

第5航空群では、SNS(X・Instagram)で、「艦めしーふーど」に関する投稿を実施しています。ぜひSNS(X・Instagram)を閲覧いただきフォローしてください。



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊 第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士又は航空戦術士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、各

段階の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。

第5航空隊第51飛行隊所属

1等海尉 小山修



令和5年7月20日(木)
初機長フライト

昨年7月中旬に正操縦士の検定に合格し、当日初機長フライトの機会を頂きました。教官がいらない中で飛行するのは小月のT-5型練習機のソロフライト以来であり、P-3Cでは初めての経験でした。操縦士としての新たなスタート地点に立つことができ、たことに大きな喜びを感じるとともに、自分の両腕にかかる責任の重さを改めて認識しました。

当日のフライトは、午前中の検定フライト後であったため多少の疲労感と高揚感を感じつつ、天候にも恵まれ問題なく無事に終わることができました。

今回無事に初機長フライトを終えることができたのは、これまで指導して下さった先輩方、同僚等、たくさんの方々の支援のおかげであると感じています。

今後とも幹部搭乗員として知識・技能を磨き、国防の任務に貢献できるよう精進してまいります。

第5航空隊第52飛行隊所属

3等海尉 大前祐飛



令和5年8月14日(月)
初機長フライト

昨年7月に正操縦士の資格を取得し、長年の夢であった初機長フライトの機会を頂きました。

当日のフライトは、天候も良く、私を祝福してくれているかのようにも思えました。着陸後、改めて自分の手で沖繩の美しい海の上を操縦できたことに感動を覚えるとともに、この美しい海を守るのだという使命感を強く感じました。

今回無事に初機長フライトを終えることができたのは、これまで指導して下さった教官、先輩方、家族、同僚等、たくさんの方々の支えがあったことだと感じています。今後とも今日の感動と感謝を

忘れることなく、操縦士としての知識・技能を磨き、国防の任務に貢献できるよう精進してまいります。

第5航空隊第52飛行隊所属

1等海尉 石角諒



令和5年9月6日(水)
初機長フライト

機長資格を取得した喜びとともに、機長としての責任を果たさなければならぬという重責を感じながらの飛行作業でした。那覇着陸後は、多くの隊員の出迎えを受け、無事帰投できたことに安堵する一方、機長としての責任の重大さを改めて感じました。今回無事に初機長フライトを終えることができたのは、これまで指導して下さった先輩方、家族、同僚等、たくさんの方々の支援、応援のおかげであると感じています。

今後、機長で飛行作業に従事する場面が多くなると思いますが、安全優先でクルーに信頼される機長を目指して今後も精進して参ります。

第5航空隊第52飛行隊所属

3等海尉 小林大吾



令和5年9月27日(水)
初機長フライト

思い返せば約8年前。パイロットを目指して七つボタンに袖を通したことを思い出します。あの頃は右も左も分からない自分でしたが、今となつては航空機の針路を決める立場となり、強い責任感を感じています。初機長フライトは、いつもと違う緊張感におそれ、滴る汗が操縦する自分の目に覆い被さってきたことを覚えています。緊張感あふれる中でのフライトでありましたが、クルーの方々から支えてくれたお陰もあり、無事初機長フライトを終えることが出来ました。改めて、私をここまで成長させてくださった上司、支えてくれた同期、家族、飛行に携わってくださった皆様に感謝申し上げます。これからも初心を忘れることなく日本の防衛のため精進してまいります。

うちなんちゅ隊員紹介

第5整備補給隊 海士長 大城駿也 (南風原町出身)



私が、海上自衛隊に入隊した動機は、高校在学時に進学が就職するか悩んでいた頃に、自衛隊入隊の勧誘を受けたことです。

元々、人のために役に立つ仕事に憧れがありましたが、決断ができず、公務員専門学校に進学しました。在学時に、やはり人の役に立つ仕事に就きたいという願望が大きくなり、海上自衛隊に入隊することを決意し、受験しました。

海上自衛隊に合格し、入隊するまでは、今までと違った環境での団体生活や同期とうまくやっていけるのかなど、楽しみの反面、不安もありましたが、教育隊に入隊後、自衛隊に必要な基礎を学んでいく中で、同じ目標に向かい、仲間たちと協力し、支えあうことで、楽しく生活することができ、「互いに支えあうことの大切さ」を学びました。

教育隊修業後は、第5整備補給隊での勤務を命ぜられ航空機整備に関する業務に従事しています。

今では、部隊の先輩や同期に支えられているおかげで、勤務への不安も解消され、国を守る自衛隊の一員として、日々精進し、仕事もプライベートも全力で楽しんでいきます。



電子機器整備中

基地・防衛モニター部隊見学

令和5年9月27日(水)、基地・防衛モニターの部隊見学が行われました。

今回は、令和4年度に委嘱された基地モニターは、航空自衛隊第9航空団を見学、令和5年度に委嘱された基地モニターと陸海、空自衛隊、地本担当の防衛モニターは、海上自衛隊第5整備補給隊を見学しました。

第9航空団の部隊見学では、戦闘機などの見学や任務及び概況説明を聴き、航空自衛隊に対する理解を深めるとともに、海上自衛隊との違いをよく認識することができました。

第5整備補給隊見学では、整備補給隊の任務についての概要説明が行われ、機側整備隊、電整隊、武整隊の見学では、けん引車の乗車体験をはじめ、高所作業車への搭乗体験、救命胴衣の装着などさまざまな体験が行われました。

参加したモニターからは、「貴重な体験をさせてもらいありがとうございます。」「陸海空自衛隊の任務の違いなどよく理解できました。」「などの感想が寄せられていました。



海上自衛隊「第5整備補給隊部隊見学」



航空自衛隊「第9航空団部隊見学」



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、**沖縄二火会事務局**または**第5航空群広報室**までご連絡ください。

■ 沖縄二火会

事務局長 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

■ 第5航空群広報室

那覇市当間 252
5aw-5230@ext.mso.mod.go.jp
☎ 098-857-1191 (内 5231)

※2023.2.5「沖縄二火会」WEBサイトを公開しました。(https://okinawa-nikakai.com)
※「でいご 121号」は令和5年8月から11月までの記事を掲載しています。